

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東柵井 66-1		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivgyosyoCd=2171200278-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家で暮らしているような安心感とともに毎日の生活において常に意思決定を尊重した対応を心がけています。大勢でにぎやかに楽しく過ごす時間もあれば一人でくつろぐ時間も大事にし、今まで行っていた趣味の延長、毎日日課としていたことなどが継続できるよう個々に支援をしています。同一敷地内に法人の施設とも交流があり合同で夏祭りを行ったり焼きいも、流しそうめんなど大掛かりな行事も協力が得られ、幅広く楽しんでいただいています。ホームのまわりは田んぼや畑が多く利用者様が過ごしてきた暮らし方に触れることが出来ます。散歩にできれば季節の作りものや田植え、稲刈りの風景が見られ話しも弾みます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が住み慣れた地域で、安心して過ごすことができる場所であり、高齢者が増えた地域住民にとっても、相談窓口として大切な役割を担っている。地域住民の好意により、空き農園での野菜や花作りの提案、栗拾いなどの収穫の呼びかけもあり、自然な交流がある。また、住民から野菜の差し入れがあり、それらを食材に利用するなど、地域と関わりながらサービス提供に取り組んでいる。利用者は年々、体力・気力が低下してくる状況にはあるが、医師の指導の下、緊急時の医療体制を整えながら、利用者が安心して過ごせるよう、日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念は全職員が理解をし、同じ目的をもって業務にあたっている。ホームの理念は事業所の見やすい場所に提示をし常に意識を持っている。	法人と事業所理念を玄関に掲示し、ミーティングで唱和し、職員間で共有している。利用者と地域住民が、安心して暮らせるよう理念の実践に取り組み、振り返りを行なっている。新人研修でも、理念について学んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の方との交流があり、野菜等を頂いたり栗拾いの誘いや朴葉や麦わらを用立てて頂くなどの協力が得られており、地域の行事などにも利用者と一緒に参加をしている。	地域行事のスポーツやレクリエーション大会、奉仕活動等に、利用者と職員が積極的に参加をしている。事業所の夏祭りには、地域の住民を招待し、交流をしている。学生の職場体験を受け入れ、次世代育成に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームとしての活動はないが法人の活動の際に一緒に活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に出しているお便りを会議の際に配布し活動の様子をお知らせすることによりその内容について助言をいただいている。外部評価やホームで行うアンケートの結果報告によりサービス提供の様子を理解して頂いている。	隔月に開催し、地域住民、家族、行政、民生委員が参加している。利用者の様子や行事の報告、今後の取り組み等を議題とし、話し合いを行なっている。事故報告については、参加者から助言を得ている。また、事業所ができる地域貢献についても、意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月当ホームの待機者状況、入退居状況を報告し実情を理解していただき介護保険情報や感染症の実態の情報の提供を受けている。	福祉現場のモデル事業所として、様々な検討課題を行政担当者に提供している。また、法改正などで助言を得たり、日々情報交換をして連携を密にしている。行政主催の研修会やネットワーク会議に参加し、利用者サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何かをしっかりと理解をした上でいかなる場合も拘束は行わないことを前提に業務にあたっている。	身体拘束、虐待の防止について、研修会を複数開催し、全職員が出席できるよう体制を整え、学んでいる。職員は、利用者の思いを大切に、目配り、気配りし、不適切なケアをしていないかを常に振り返り、利用者が、安心して過ごせるよう、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が研修を受講し理解をして、いかなる場合も虐待は行わないことを実践している		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約書、重要事項説明書を通して納得いただけるよう説明を行っている。そのほか個人情報の使用確認書や同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見や要望を頂く機会を設けている。毎月の利用者状況報告書には返信欄を設け家族からの意見をうかがうようにしている。毎年満足度アンケートを実施し意見や苦情、要望をうかがう機会を作っている。	家族会や運営推進会議、毎月送付する報告書などを通して、家族と意見交換をしている。また、家族と連携して、利用者を支える姿勢を大切にしている。家族から「家族会開催後に、個別の話し合いをする時間を設けて欲しい」との要望があり、速やかに対応を行なっている。	職員が知恵と経験を活かし、利用者の今の状態を出来るだけ維持するよう努めている姿勢に、家族から感謝の声が届けられている。今後も、利用者の現状維持の支援に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開く職員会議や隔月のエリア会議で職員の意見が発表できる機会がある。	管理者も現場に従事することで、日常的に、職員が意見や提案を発言しやすい関係にある。職員からの提案等で、速やかに改善できること、組織的に取り組むことなどを判断し、対応を行なっている。また、より良い職場環境作りに取り組み、職員の定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で常にスキルアップを目指し資格取得への取り組みの推進がある。成果に対しての手当や時間外勤務、勤勉手当など意欲をもって勤務できる環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じ新人研修、中堅研修、リーダー研修を受講するシステムがある。そのほか勉強会や研修など法人外に研修にも積極的な参加のうながしがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月第2水曜にネットワーク会議が開催され、市内の各事業所が参加し情報の交換が行われている。その会で事例検討会や講演会が開かれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントは時間をかけて行い、本人のみならず家族の思いも傾聴するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場にたった視点で話を聞き、どのようなケアを実践するかを説明し納得を頂いている。実践の様子を毎月利用者状況報告書にてお知らせをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族にとってまず何が必要であるかを認識し、優先的に行うサービスや段階を踏んで行うサービスを必要に応じて提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は常に対等の立場で接し一方的に押し付けたり指示することのないよう心がけている。利用者の力を引き出せるよう最小限の介護を行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族との関係が切れることのないよう家族にしかできないことを理解して頂きながら家族と一緒に利用者を支え合うことが出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとり、併設の施設に友人が入所されている場合の訪問、以前に定期的に出かけていた場所への外出の支援を積極的にを行っている。毎年年賀状には返事をだしており年々、枚数が増えている。	利用者同士が近隣の住民であったり、法人内での交流から、馴染みの関係が継続できている。喫茶店や、地元の店へ買い物に出かけた際に、知人に出会ったり、外出時に、利用者の馴染みの場所を通るなど、個々に支援をしている。家族の協力も多く得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やサークル活動の際は参加している利用者全員が楽しめるよう配慮をしている。利用者がお互いに助け合えるよう手伝ってもらうなど環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の環境や生活にスムーズに移行できるよう情報の提供や相談支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメント以外にも普段の様子から情報の収集をし要望や希望等意向に沿うよう努めている。	入浴介助や散歩時、また、それぞれの個別ケアの際に、利用者の思いや意向を把握し、知り得た情報は介護記録に記入し、職員間で共有して、サービスに活かしている。困難な場合は家族に聴いたり、日々の様子から思いを汲み取り、一人ひとりの希望に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基本に毎日の過ごし方から気が付いたことを記録したり家族からも話を聞いた聞いたことをセンター方式を利用して、職員で共有しながらより過ごしやすい環境を作るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活を送るうえでいろいろな場面で力を発揮したり喜ばれたりしたことを記録し職員間で共有しその後の生活のケアに生かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い適切に実施されているかを確認している。時には変更をしたり内容を変えたりと無理なく実践できるよう話し合っている。	カンファレンスには家族の参加を得て、意見や要望を聴いている。介護記録を基に、担当職員や医師の意見、必要時には栄養士、理学療法士などの専門職による幅広い意見を取り入れ、介護計画を作成している。変化時には柔軟に見直しを行ない、利用者の状態に合わせた適切な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子から気づいたことや考察、ケアプランの実施の様子等を記録し職員間で共有し今後の支援に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族から提案や要望があれば対応に向けて取り組む姿勢がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会とボランティアの提携を結び必要に応じて利用している。社会とのかかわりや余暇の充実が図られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の利用、入居前からの主治医による往診、利用者が希望する医院への通院とがそれぞれ納得いく形で診療がうけられている。受診の際は情報の提供をおこないホームでの様子を報告している。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明している。利用者は従前のかかりつけ医を継続し、往診も受けている。受診の際には、利用者の情報提供を詳細に行い、緊急時は、協力医による適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の身体状況や様子の変化には注意を払いその旨、記録に残し必要であれば家族、主治医に報告し受診の依頼を行うなど早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療計画や経過の観察を常に把握できるように医療機関の連携室と常に連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に当ホームで出来る事出来ないことを説明し理解を得ている。看取りは行っていないため利用者の状態の変化によってほかの施設への入所を勧めている。	入居時に、重度化や終末期の支援について、事業所の方針を利用者、家族に説明し理解を得ている。状態の変化にともない、早い時期に関係者が十分に話し合い、適切な対応を行ない、利用者や家族に不安が無いよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習は全員が受講しAEDが使える。法人内でも勉強会を開きその都度参加をしている。感染症の時期は必要品を準備し毎年勉強会が開かれている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と合同での避難訓練、夜間招集訓練をとおり日頃から災害に対しても意識を高めている。3日間の食べ物と水の備蓄をし、万が一に備えている。	年2回夜間想定を含め、火災訓練を実施している。連絡網の確認、器具の取り扱い、誘導などを実施し、反省会も行っている。訓練には、自治会や地元企業の参加があり、協力体制が構築され、備蓄も確保している。地震、水害対策についても、話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレの声掛けには配慮をしている。毎日の薬の塗布の際もまわりの利用者に気づかれることのないよう注意をしている。職員同士の会話からも内容が漏れることのないよう利用者のまえでの会話には注意を払っている。	法人のエリア研修では、利用者の人権尊重を、特に重視して学んでいる。誇りやプライバシーを損ねない声かけと対応を基本姿勢とし、不適切な対応がないか、日々確認している。トイレ介助や入浴ケアの際には、羞恥心に配慮し、また、利用者の情報、書類の扱い等、個人情報保護を図ることを、全職員に周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな場面でも押し付ける事無く利用者の意見や重いを尊重した対応を心がけている。利用者が意思決定ができるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課は決めていないが当日の思い付きや天気によって出掛けることが度々ある。塗り絵をしたりパズルをするなど思い思いに余暇をすごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め、パーマの希望があればその旨家族と連絡を取り意向に沿うよう支援を行っている。化粧水や乳液の使用、購入。毎日の服選びなどは本人が選ぶことが出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は毎日にかけており、おやつなど好きな物を選んでいただいている。野菜の下ごしらえは用意したエプロンをつけることにより、より達成感を感じることが出来ている。	利用者と一緒に、食材の買い出しに出かけたり、地域の人や家族からの差し入れの食材を利用するなどして、手作りの食事を提供している。利用者も、野菜の下ごしらえや配膳、片付け等に、自然に関わり、食事中は会話を楽しみながら、職員と一緒に美味しさを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個別の把握しそれぞれに応じて摂取をして頂いている。栄養士による献立で適切に摂取ができています。季節感や嗜好に考慮した献立や外食にでかけるなど食べる楽しさを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、確認、介助を利用者ごとに行い、口腔内のトラブルの早期発見に努めている。アスナロ歯科クリニックと提携をし、希望者には口腔ケアを実施し、義歯の不具合などが発生した場合は往診をしてもらっている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの際に尿取りパットの状態やトイレでの排泄を確認し、時間を見て誘導しトイレでの排泄を支援している。声掛けや適切な誘導によりパットの使用を減らしたり、布パンツの使用を支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけと誘導で、トイレでの排泄が習慣になるよう支援している。職員の繰り返しの支援により、布パンツになった利用者もある。夜間は安全面に配慮し、個々に適した対応を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	どうしても改善しないときは主治医と相談をし薬にたよるが出来る限り自然な排便ができるよう運動や食物などを工夫し促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴を確保している。身体の状態によっては毎日の入浴に応じている。気の合った利用者同士一緒に入るなど変化を持たせている。菖蒲湯やゆず湯など季節感や習慣も大事にしている。	入浴は週3回を原則としているが、利用者の状態に合わせて、曜日や時間など、希望に添った支援をしている。ゆったりと個浴を楽しむ人や気の合う仲間との入浴、職員の介助や見守りの中での入浴など、それぞれが安らぎの時間となるよう支援している。季節感を味わう工夫も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の明るさや温度、寝具の好み、就寝時間、昼寝の習慣などそれぞれの個別処遇に対応し過ごしやすい環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を全員が保持し、薬剤情報は処方の度に入れ替え、常に最新の情報が得られている。薬の処方の変更があった時はその後の様子の変化を観察し医師に情報の提供を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントやその後の利用者様との話から聞き取りを行いセンター方式を利用しながらその人らしい生活が送れるよう支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じる事と地域の方と顔なじみになる事を目的として散歩は毎日出掛けている。毎月の外食のほか、喫茶店でのお茶の希望や買い物にはできる範囲で対応している。墓参りや祭りはご家族の協力がある。	利用者の健康状態や天候などを考慮しながら、日常はホーム周辺の散歩、買い物、喫茶店等に出かけている。毎月の外食を兼ねた外出は、利用者の楽しみでもある。また、地域住民との交流や年間行事等で、戸外に出かける機会を多く設けている。	

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお金は預かっていないが個人が所持する部には見守りにて支援をしている。併設の特養とケアハウスに移動販売がくるので希望者は利用している。また外出時に好きなお菓子を購入することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からハガキ、手紙が届いた際は返事を出すよう支援をしている。毎年賀状をだし、親戚の方と交流がある。電話はいつでも利用可能であることを伝え利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、あいている壁のスペースに季節の飾りものを共同で制作し飾っている。居室の入り口には季節を感じる事が出来る物を利用者が制作して飾っている。	共用の空間は広く、昼間は、ほぼ全員の利用者が、共用の間のソファで寛いでいる。健康面にも配慮して加湿器を設置し、季節感のある作品、習字、花などを飾っている。利用者は、趣味を活かした小物作りを楽しんだり、職員と利用者、利用者同士で雑談するなど、思いのままの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は全員がゆっくり座れるスペースを確保し、好きなところでくつろいでいただいている。利用者が互いの居室を行き来する姿がみられ、一人でゆっくりと過ごされる時間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はできる限りご自分の使っていた物を持って来ていただくよう話をしている。ベッドの向きや配置も利用者が過ごしやすいよう相談をして決めている。また畳みを希望される場合は畳みを用意している。	居室は掃き出し窓で開放感があり、利用者が布団を干したり、花の手入れをしている。ベッド、洗面所、クローゼットが設置されている。整理タンスや椅子など、使い慣れた物を持ち込み、「私の部屋」として、心地よく生活できる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示は遠くからでもわかるように手作りの表示を取り付けている。居室がわからない利用者には入り口に目印をつけたり名前を大きく書いている。パズルや本は必要時職員に頼まなくても自分で出せるように配置。		